



# 「いつ迄もお待ちしてありますわ」

終 桑島信雄

視界が急に明るくなった。彼女はそこで待つていいのだろうと自分がつかまれたの恐れでじろじろたりと見廻した。彼女を呼ぼうとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかされていのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかされていのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかされていのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかされていのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかれて

いのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかれて

いのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかれて

いのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかれて

いのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかれて

いのね、諒さん、母さんよ……ね」母は諒が説のわからない事を音つてはいるが自分が見えるよう

うとした。体を動かさうとしたが、体がすき痙攣(けいれん)、不気味な顔をした。「未だ懲りつかれて

それから二日過ぎた或る日にからた諒一は今迄の事を恩に出て見足。母は木山君の死を

い出して見足。母は木山君の死を

演劇研究会を催し多大の喫茶を

博したので、十日食餉でこの反

省会を催し第一回には必ずよき

しまったと思った。日々に恢復した諒一は千恵子さん母

の目に涙がたまるのを見てや納得した様だった。それによると諒

一は最初信じなかつたが母

が医師に向つて言つた「憎め者

は医師に向つて言つた「憎め者

は医師に向つて言つた「憎め者

は医師に向つて言つた「憎め者

## 演劇反省会

新しいDPは富士

勿采町青年会では毎日常磐座

演劇を公開すべく研究することに

博したので、十日食餉でこの反

省会を催し第一回には必ずよき

しまったと思った。日々に恢

復した諒一は千恵子さん母

の目に涙がたまるのを見てや納

得した様だった。それによると諒

一は最初信じなかつたが母

が医師に向つて言つた「憎め者

は医師に向つて言つた「憎め者



